

農 業

1 学習指導の工夫・改善

(1) 各教科等における探究的な学び

新学習指導要領では、学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成するために、教科等横断的な学習を充実させることが求められている。

各教科においては、「探究」の名称が付されていない科目等についても、それぞれの内容項目に応じて、探究的な活動は取り入れられるべきものである。各教科における探究的な学びには、探究のプロセス全体を通して資質・能力を育成するだけでなく、「整理・分析」や「まとめ・表現」など探究のプロセスの一部に焦点を当てることも考えられる。この際、「考えるための技法」を効果的に活用することが重要である。

農業科においては、各科目における学習内容の改訂の共通点として、生徒が課題意識をもって、主体的・計画的に農業学習に取り組むよう、「プロジェクト学習」の意義やプロセス「①課題設定、②計画立案、③実施、④まとめ（反省・評価）」並びに実践について関係する科目に位置付けられている。各科目でプロジェクト学習の意義や実践について理解した上で、科目「課題研究」で農業学習の集大成として、専門的な知識と技術を関連付け、その深化・総合化を図るよう探究することが必要である。

(2) 教科等横断的な視点を意識した年間指導計画の作成

農業科における学習内容には、施肥量や農薬等の希釈、栽植密度、塩分濃度、精白歩合、オーバーランなど計算を伴う内容が含まれているため、数学科や理科（生物、化学）において割合や単位、濃度の計算を身に付けておくことが重要である。また、国語科における表現活動や、情報科における情報デザインなどの学びは、農業科における学校農業クラブ活動において、自分の意見をまとめて発表したり、班ごとに研究を行い、スライド等を用いて発表したりする場面で生かすことができる。また、農業経営者の育成に当たっては、公民科で取り扱う、経済状況に関心をもつことが重要である。さらに、家庭科の食に関する学習は、農業生産をしている農業科と内容に深いつながりがあると言える。

このように農業科で学習する内容には、共通教科の学習内容を基礎としていたり、関連したりしている分野が少なくない。日常的に他教科の科目担当者と情報交換を行ったり、シラバスなどに教科とのつながりを記載し見える化したりすることで、教科等横断的な視点を意識し、生徒の学びを深めることにつなげることができる。

次の表は科目「食品化学」の年間指導計画の例である。

教科名	農業	科目名	食品化学
科 目 の 目 標	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食品の成分と栄養価値の利用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 食品化学について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 食品化学に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 食品化学について食品の成分や栄養を理解し、農業の各分野で応用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		

履 修 学 年		2 学 年		単 位 数	2 単 位	
月	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準		評 価 方 法	関 連
4	「食品化学」とプロジェクト学習	①食品化学に関するプロジェクト学習の意義 ②プロジェクト学習の進め方	【知識・技術】食品化学に関するプロジェクト学習の意義や進め方について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】食品化学に関する課題を発見し、プロジェクト学習により科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。 【主体的に学習に取り組む態度】食品化学について自ら学び、プロジェクト学習に必要な情報収集と分析に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		行動観察 ワークシート 小テスト	
5 6	食品の成分	①食品成分の分類 ②食品成分の機能 ③食品成分の変化	【知識・技術】食品の成分について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】食品の成分に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。 【主体的に学習に取り組む態度】食品の成分について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		行動観察 ワークシート 小テスト	化学
7	食品の成分分析	①基本操作 ②定量分析 ③水分 ④タンパク質、脂質、炭水化物 ⑤無機質、ビタミン	【知識・技術】食品の成分分析について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】食品の成分分析に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。 【主体的に学習に取り組む態度】食品の成分分析について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		行動観察 ワークシート 実験レポート 小テスト	課題研究
8 9	食品の栄養	①食品成分の代謝と栄養 ②栄養改善と機能性食品 ③食品成分表と栄養的価値	【知識・技術】食品の栄養について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】食品の栄養に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。 【主体的に学習に取り組む態度】食品の栄養について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		行動観察 ワークシート 実験レポート 小テスト	家庭基礎

ここでは、「指導項目」をそのまま単元としている。

科目「化学基礎」の内容「(1)化学と人間生活」と関連

2(1)に計画例を示す

課題研究の「指導項目」「(2)調査・研究・実験」におけるプロジェクト学習で取り組む研究へ発展

科目「家庭基礎」の内容「B衣食住の生活の自立と設計 (1)食生活と健康」の学習内容と関連

2 新学習指導要領における指導と評価の計画例

(1) 科目「食品化学」における計画例

ここでは、科目「食品化学」の単元「食品の成分分析」（全12時間）に関する指導と評価の計画例を示すとともに、このうち第11時の「微量成分の定量分析」の評価及びICT活用の事例について示している。

本事例では、「指導項目」をそのまま単元としているため、単元の目標は、学習指導要領解説の該当する指導項目における身に付ける事項から作成している。

ア 単元の目標

(ア)	食品の成分分析について理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
(イ)	食品の成分分析に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する。
(ウ)	食品の成分分析について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。

イ 単元の評価規準 **「ア 単元の目標」の文末を「～している」とすることで、作成できる。**

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
食品の成分分析について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	食品の成分分析に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。	食品の成分分析について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

ウ 単元の指導と評価の計画（12時間）

時間	ねらい	知	思	態
1～2 【2時間】	・成分分析の基本操作や重量分析、容量分析を通して食品の成分分析について学習する。 ・分析に用いる機器の操作技術について習得する。	○ ○		
3～8 【6時間】	・身近な食品をサンプルとして分析実験を行うことで、分析方法の原理と測定値の取扱いについて考察する。		○	
9～12 【4時間】	・各種成分の分析方法と測定値の取扱いを理解し、定量分析について考察する。	○		○

エ 学習指導案（11時間目／12時間中）

過程	主な学習活動	指示・説明及び指導上の留意点	【観点】 ■評価方法
導入 (10分)	<p>【問い】 しょうゆはどんな原材料からできているか考えてみよう。</p> <p>前時の学習内容を確認する。 本時の学習内容を知る。</p>	<p>前時の学習内容を説明する。 本時の学習内容を説明する。 実験の留意事項を説明する。</p>	<p>【観点】 ■知識・技術 ■ワークシート〔例1〕</p> <p>食品の原材料について知識の定着が図られているか確認する。</p>
展開 (35分)	<p>【問い】 どちらのしょうゆが塩分濃度が高いか考えてみよう。</p> <p>しょうゆの塩分濃度について仮説を立てて説明する。</p> <p>モール法について説明を聞き、実験操作を行うことで、実験の原理を学ぶ。</p> <p>3～4人のグループに分かれ、実験操作を行う。</p> <p>各グループより出された実験結果について発表する。</p> <p>ワークシートを活用し、モール法滴定値と塩分濃度の関係についてまとめる。</p> <p>【問い】 どちらのしょうゆが塩分濃度が高かったか確認してみよう。</p> <p>学習支援ソフトを活用し、実験の結果について整理する。</p>	<p>濃口しょうゆと淡口しょうゆを題材として、しょうゆの種類による塩分濃度の違いについて考えさせる（各自）。</p> <p>モール法における試料・試薬の秤量、実験器具の使用上の注意点を説明する。</p> <p>実験の操作について机間巡視・指導を行う。</p> <p>ICT端末を活用し、実験結果測定値を学習支援ソフトに記録する。</p> <p>発表する順番の指示をする。</p> <p>実験結果の滴定値と塩分濃度の関係について、学習支援ソフトに記録された数値を基に、科学的に検証する。【例2】</p> <p>モール法滴定値と、しょうゆの塩分濃度について説明する。</p>	<p>普段の生活から食にどのくらい興味・関心をもっているか観察する。</p> <p>【態度】 ■行動観察</p> <p>グループごとに実験の過程について観察する。</p> <p>【態度】 ■ワークシート</p>
まとめ (5分)	<p>学習の振り返りを行う。 自己評価を実施する。</p>	<p>自己評価を実施させる。</p> <p>小テストや自己評価を活用することにより学習の定着を図り、評価の総括へとつなげる。</p>	<p>【知識・技術】【態度】 ■小テスト、ワークシート</p>

オ 評価問題等

(ア) 「知識・技術」及び「主体的に学習に取り組む態度」の評価

本時で使用するワークシートの例を示す〔例1〕。設問の意図は吹き出しで、各項目の評価のポイントは、四角枠で示している。

〔例1〕ワークシートの例

食品化学実験ワークシート (例)
モール法によるしょうゆの塩分濃度測定

〇〇年〇〇月〇〇日 (〇) 出席番号: 〇〇 氏名: 〇〇 〇〇

1 しょうゆの原料は何か思い出してみよう。

大豆、米麴、食塩

2 どちらのしょうゆが塩分濃度が高いか予想してみよう。
塩分の高いしょうゆは (濃口しょうゆ・淡口しょうゆ)

理由 色が濃いので塩分濃度が高そうだったから

3 しょうゆの塩分濃度測定実験『モール法』について

原理 AgはClと反応して塩化銀となり沈殿し、さらにClが無くなるとCrO₄と反応してクロム酸銀となり、赤褐色の沈殿が生成される。

(1) 試料・試薬の調整


① **メスピペット**で1mlのしょうゆを計りとり、100mlメスフラスコに入れメスアップする。

② ①のしょうゆ10mlを**10mlホールピペット**で計りとり、コニカルビーカーに入れる。

③ クロム酸カリウム溶液を0.5ml計りとり、②のコニカルビーカーに入れる。

(2) 実験結果 (右のQRコード参照)

実験結果については、各班代表者のICT端末を活用して入力すること。



(3) まとめ (グループで話し合ってみよう)

実験結果から、どちらのしょうゆの塩分濃度が高いか理由も含めてまとめなさい。

淡口しょうゆのほうが滴定値が多く、計算結果からも淡口しょうゆの塩分濃度が高い。色は濃口しょうゆの方が濃いですが、塩分濃度は淡口しょうゆの方が濃いことが分かった。

前時における学習の定着度を確認するための、「知識・技術」に関する設問である。

いずれか1つを答えた場合は評価B、全てを答えた場合は評価Aとする。

グループごとに仮説を立てさせ、話し合いを行うための設問である。行動観察により、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

自ら発言をして話し合いをしている場合は評価A、発言せず聞いているだけの場合は評価Bとする。話し合いに参加していない場合は、声かけを行い、参加するよう促す。

説明を聞き、実験の原理及び実験方法について理解しているかを確認する「知識・技術」に関する設問である (四角枠内を答える)。

実験器具のみを答えた場合は評価B、実験の原理及び使用する実験器具を正しく答えた場合は評価Aとする。

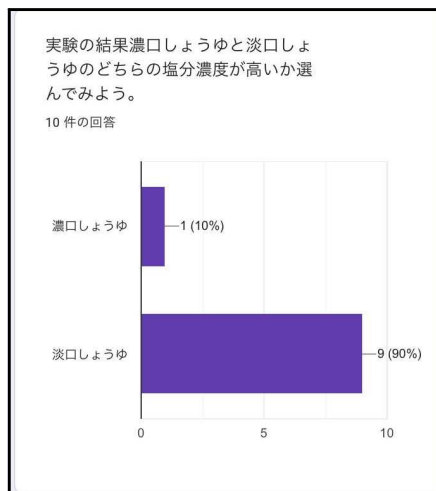
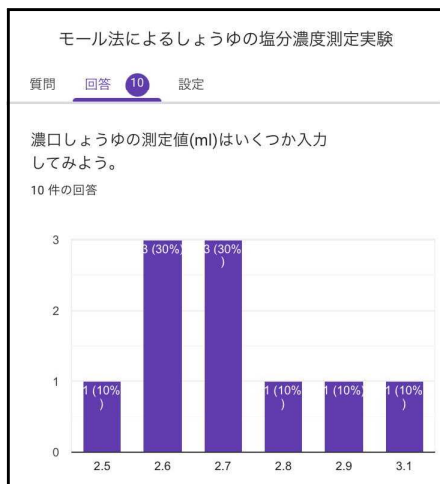
グループで話し合い、まとめを行うための設問である。

グループの考えをまとめ、分かりやすく伝えようとしている場合は評価B、評価Bの内容に加え、よりよい改善方法を考えようとしている場合は評価Aとする。

(イ) ICT端末の活用例

本授業では、実験結果を視覚的に分かりやすく生徒に示すために、学習支援ソフトを活用している。

〔例2〕学習支援ソフトの回答集約例



ICT端末を活用することで、グラフで視覚的に示され、生徒の理解を促すことができる。

(2) 科目「野菜」における計画例

ここでは科目「野菜」を取り上げて、複数の〔指導項目〕を組み合わせることで1つの単元とした場合の指導と評価の計画について具体例を示す。

単元名	葉や花茎を利用する野菜（ホウレンソウ）の栽培
指導項目	(1) 「野菜」とプロジェクト学習 (3) 野菜の特性と栽培技術 (4) 野菜の栽培と管理・評価 (6) 野菜生産と経営の実践

指導項目の
(2) 野菜生産の役割と動向
(5) 野菜の生産と経営
については、別の単元で学ぶため、本計画例では除外している。

ア 単元の目標 **学習指導要領の目標や内容、生徒の実態、前単元までの学習状況等を踏まえて作成する。**

(ア)	野菜生産と環境の相互関係などの基本を理解するとともに、野菜栽培に関する科学的な見方を身に付ける。
(イ)	野菜生産に関わる諸課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的な野菜経営に取り組む能力と態度を身に付ける。
(ウ)	野菜生産の動向や特性、栽培技術について自ら学び、主体的かつ意欲的に取り組む態度を身に付ける。

イ 単元の評価規準 **「ア 単元の目標」の文末を「～している」とすることで、作成できる。**

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
野菜生産と環境の相互関係などの基本を理解しているとともに、野菜栽培に関する科学的な見方を身に付けている。	野菜生産に関わる諸課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的な野菜経営に取り組む能力と態度を身に付けている。	野菜生産の動向や特性、栽培技術について自ら学び、主体的かつ意欲的に取り組もうとしている。

ウ 単元の指導と評価の計画（8時間）

時間	ねらい	知	思	態
1～2 【2時間】	・栽培上の特性について理解することができる。	○		
3 【1時間】	・栽培管理・作型と経営について理解することができる。	○		○
4～7 【4時間】	・実習を通して栽培管理ができる		○	○
8 【1時間】	・学習全体を通して栽培や経営に対する評価ができる。	○	○	

課題研究におけるプロジェクト活動での必須となる経営面に対する考え方、経済性の検討を盛り込むエ、オ(ア)参照

エ 学習指導案（3時間目／8時間中）

科目名	野菜		
単元名	葉や花茎を利用する野菜（ホウレンソウ）の栽培		
本時の目標	ア ホウレンソウの栽培管理・作型と経営について、理解する。 イ 学んだ知識をもとに、経営や栽培方法について主体的かつ意欲的に取り組む。		
本時の評価規準		知識・技術	主体的に学習に取り組む態度
	A	栽培方法や作型について、意義や根拠も含めて理解している。	グループワークに積極的に参加し、グループの中心的役割を担い、周囲に伝わる明確な発表をしている。
	B	栽培方法や作型の基礎について理解している。	グループワークに積極的に参加している。
	C	栽培方法、作型について理解できていない。	自身の考えも明確ではなく、グループワークでも消極的である。

過程	主な学習活動	指示・説明及び指導上の留意点	【観点】 ■評価方法
導入 (10分)	<p>【問い】ホウレンソウの特性について思い出そう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時の確認(栽培上の特性) 本時の目標及び学習内容の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の授業内容を振り返る。 高品質なホウレンソウの栽培管理や、作型と経営上の設計について理解させる。 	<p>前時の授業について知識の定着が図られているか確認する。</p> <p>【知識・技術】</p> <p>■行動観察</p>
展開 (35分)	<p>栽培管理の方法</p> <p>【問い】栽培に適している時期はいつだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 作型とは・品種とは <p>【問い】どの時期に、どのような品種を栽培すると、収益が多くなるだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ホウレンソウの需給動向 <p>【問い】経営者として、どのようにホウレンソウを栽培しますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループワーク 発表 発表内容のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> 播種・施肥、間引き、防除等の管理の実際について説明する。 基本的な栽培管理について理解させる。 北海道における作型とホウレンソウの種類・品種について説明する。 栽培についての学習を振り返り、歩留まりがよい時期・抽台等が多くなる時期について理解させる。 需給曲線についての学びを振り返り、北海道における生産の実態を説明する。 ICT端末を用い、全国における市場価格の推移、北海道産の価格推移、消費者ニーズについて調べると、より学びが深まる。 高付加価値・高収益につながるホウレンソウ栽培の在り方について意見交換をする。 話し合いが停滞した時は、キーワードとして、端境期、寒締めホウレンソウ、抽台による品質低下、他作物との競合関係などを示し、話し合いを活性化させる。 学習をもとに自分たちで作型を設計し、販売までの道筋と、そのように設計した根拠を発表する。 全グループの発表内容を振り返り、よりよい栽培体系の在り方について共有する。 発表した内容に関連した、社会動向、世界の動き(SDGs、ゼロカーボン、みどりの食料システム戦略等)を伝え、これからの農業経営について考えさせる。 	<p>【知識・技術】</p> <p>■ワークシート【例3】</p> <p>科目「生物」における植物の生理・生態の学習内容と関連付けながら、展開する。</p> <p>科目「公共」や科目「農業経済」で学ぶ需給動向と価格の変動、マーケティングについての学習との関連も踏まえ、ホウレンソウの市場特性について理解を深める。</p> <p>経営者の視点に立って、ホウレンソウをどのように栽培したいと考えるか、グループで主体的、協働的に思考するよう促す。</p> <p>【態度】</p> <p>■行動観察</p> <p>■グループワークでの様子(積極性・役割等)</p> <p>科目「課題研究」におけるプロジェクト学習(探究活動)での取組につながることや、新たな研究テーマの設定につながるよう指導する。</p>
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> 本時の振り返り 次回予告 	<ul style="list-style-type: none"> 学んだこと、考えたことを振り返る。 「栽培・作型・経営についての学びを踏まえた栽培実践①」 本時までの3時間の学習を踏まえ、栽培実習を行うことを伝える。 	<p>【知識・技術】【態度】</p> <p>■行動観察</p> <p>■ワークシート【例4】</p> <p>実習時における「主体的に学習に取り組む態度」の評価をオ(1)で示す。</p>

オ 評価問題等

(ア) 「知識・技術」及び「主体的に学習に取り組む態度」の評価

本時「栽培管理・作型と経営（ハウレンソウ）」において使用するワークシートの例を示す〔例3〕。「知識・技術」に関する項目は、実線で囲み、「主体的に学習に取り組む態度」に関する項目は、点線とし、生徒が分かりやすいよう工夫している。評価については、次に示す表を基準に評価することとし、Cと判断した生徒への手立ても示した。

なお、説明を基に思考させて記入する項目もあるが、本時は「思考・判断・表現」について評価を行わない。

評価	A	B	C
知識・技術【実線枠】	記入漏れがない	1～2項目の記入漏れ	3項目以上の記入漏れ
主体的に学習に取り組む態度【点線枠】	考えたことや話合いの記録について、各項目3つ以上記入し、かつ内容が的確である。	考えたことや話合いの記録について、各項目2つ以上記入している。	*Cと判断した生徒について、個別学習での学びの機会を作り、内容を深めた上で、再度栽培のあり方について考えさせる。

〔例3〕 ワークシートの例

本時の目標
 ① ハウレンソウの栽培管理や作型と経営について、理解しよう。
 ② 学んだ知識をもとに、経営や栽培方法について主体的かつ意欲的に考える態度を身に付けよう。

野菜学習ワークシート

ハウレンソウの栽培と作型を考える

1. 栽培上の特性（振り返り）【知・技】

- ・播種から収穫までの日数は_____日
- ・生育適温は_____℃
- ・（低温・高温）に強く、（低温・高温）に弱い
- ・長日条件で_____する。
- ・土壌の適正pHは_____である。

特性からわかる栽培のポイント

① _____

② _____

③ _____

2. 栽培管理【知・技】

3. 経営上の特性【知・技】

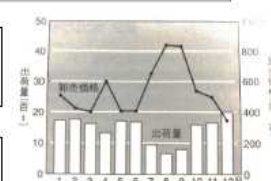


図 ハウレンソウの月別出荷量と価格の推移

4. グループワーク「あなたは経営者として、どうハウレンソウを栽培する？」

【総】

MEMO：

他の班の考えは？：

まとめ：

5. 自己評価

項目	A	B	C
知識・技術	栽培方法や作型について、意義や根拠も含めて理解している。	栽培方法や作型の基礎について理解している。	栽培方法、作型について理解できていない。
主体的に学習に取り組む態度	学んだ知識・技術をもとに、農業経営する上でどう作型を組むか主体的に考えた。また、グループワークでも周囲に自分の意見を適切に伝えることができる。	学んだ知識・技術をもとに、どう栽培するか考えることができた。またグループワークでも自分の意見を伝えることができた。	実際に作型を組み、栽培するところまで考えられなかった。またグループワークでは意見を話すことができなかった。

プリントの様式は、単元内の授業において継続して使用できるよう工夫している。

天候や授業の展開によっては、栽培に関わる管理の全てを行うことができないため、実習で実施できなかった内容についても、記入できるのがポイントである。

また、播種前から収穫までの一連の作業項目を知ることが、栽培上の特性をつかむために、重要である。

左欄には、自分自身の考えやグループ内の意見を整理しながら記入する。右欄上段には、発表後、他の班の意見の要点も記入し、下段には、最終的なグループの考えをまとめる。

該当する項目に○を付け自己評価とする。生徒の自己評価と併せて、上記の記入状況やグループワークでの取組を踏まえ評価する。

(イ) 「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の評価

〔例3〕における授業を踏まえ、次時に行う実習のワークシート例を示す〔例4〕。本事例では、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の評価例を示す。

〔例4〕実習で用いるワークシートの例

観察学習ワークシート

ホウレンソウの栽培記録・観察

施設	月 日 ()	肥料名: (成分 (Kg/10a) N : P : K)
施設・圃地	月 日 ()	
播種日	月 日 ()	永開 cm、株間 cm 種子の色
播種	月 日 ()	種子のスケッチ
観察日	月 日 ()	品種:
観察地	月 日 ()	特徴:
観察時間	月 日 ()	
観察者	月 日 ()	
観察場所	月 日 ()	
観察内容	スケッチ:	わかったこと
観察の記録	月 日 () 圃地:	観察結果:
収穫	月 日 ()	袋 (製品重 kg、梱包用品 kg、反収 kg)
出荷時期 (ホウレンソウ)		
気づいたこと、わかったこと、疑問に思ったこと		

「思考・判断・評価」の評価

○ 評価Aと判断した例

スケッチ:



わかったこと
葉が9枚展開していることが確認できた。ロゼット状葉も観察でき、品種として立性であることも確認できた。

【Aと判断した理由】
色の濃淡等、細かな点まで調査できている。また、授業で得た知識と観察結果を関連付けて記録できている。

○ 評価Bと判断した例

スケッチ:

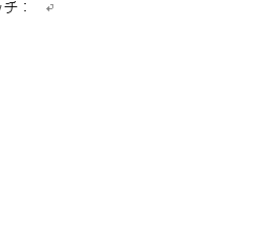


わかったこと
葉が9枚展開していることが確認できた。葉が上を向いて立っている品種だとわかった。

【Bと判断した理由】
葉の形状と葉数について観察・記録できている。併せて立性である品種の特徴を理解している。

○ 評価Cと判断した例

スケッチ:



わかったこと

【Cと判断した理由及び生徒に対する手立て】
未記入のため、Cとする。個別に未記入の理由を確認し、観察のポイントや栽培上の要点について指導し、気づきを促す。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価

○ 評価Aと判断した例

夏場の栽培に比べ、抽だいが少なかった。規格外が少なく、涼しくなってから作ると収益も上がりやすいと思った。高温になる夏場に収量を上げるための工夫にはどのようなことがあるか疑問に思った。

【Aと判断した理由】
授業で得た用語等の知識を基にした気づきについて書かれており、学習や観察から生まれた経営改善と生産等の評価に関わる疑問や課題についても書かれている。

○ 評価Bと判断した例

夏場の栽培に比べ、抽だいが少なくてよかった。たくさん収穫できたから、うれしい。

【Bと判断した理由】
学習や観察から生まれた気づきや収穫の際の様子が記入されている。

○ 評価Cと判断した例

楽しかった。

【Cと判断した理由及び生徒に対する手立て】
感想のみの記入となっている。他の記入内容も含め、未記入の項目が多い場合には、個別に声かけを行い、学びや気づきを促す。